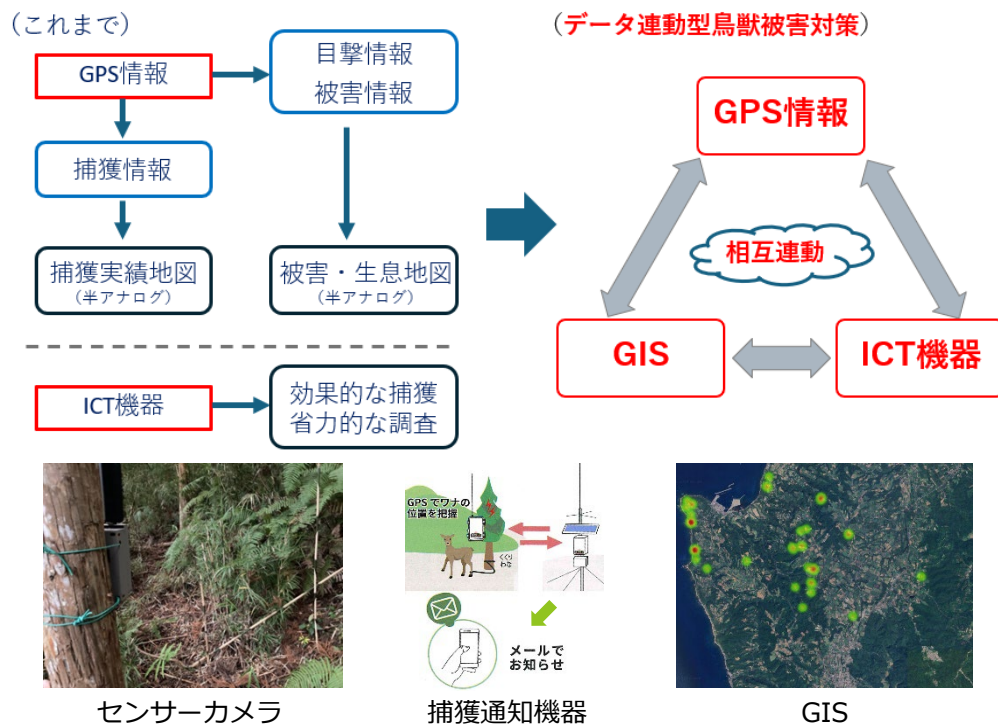


実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7～R9	鹿児島県南種子町 (南種子町鳥獣被害対策協議会)	シカ、鳥類（カラス、カモ）	◎	○	○	—

事業概要

・捕獲通知機器のGPS情報（捕獲地点の情報）や、センサーカメラで得られた生息調査情報、町公式で収集する目撃・被害情報をGISに連携・集約し、可視化することで、わなの見回り負担を軽減しつつ、生息・目撃・被害状況を踏まえた効果的な捕獲・追払い・集落点検を実施

【イメージ】



【データの利用イメージ】

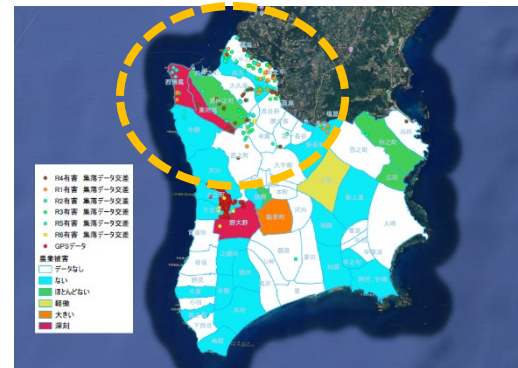


図1：シカによる農業被害

- ①被害のモニタリング（図1←）や捕獲位置を整理し、捕獲重点地域を選出（黄色点線内）
- ②対象地域の捕獲者が連携し、ICT捕獲システム（図2，3↓）による集約的な捕獲を実施中



図2：ほかパト(親機)



図3：ほかパト(子機)



図4：獣害予防アプリ

	R7年度実績	次年度以降実施予定
<p>実証内容</p>	<p>「ほかぱと」および「けものおと」の活用実証（9月9日開始）</p> <ul style="list-style-type: none"> 捕獲重点エリアにおける見回り、捕獲の効率化に向け「ほかぱと」、「けものおと」を活用した結果、捕獲活動の負担軽減、意欲向上に一定の効果が確認。一例として捕獲者から、「遠くのわなの状況が分かりやすく、見回りが楽になったので、機器を活用してさらにわなを増やしたい」との声があった。また「ほかぱと」と連動した「けものおと」による捕獲報告のデジタル化と捕獲位置情報の収集を実施中。 一方、本町のシカ生息地の多くは、沢を伴う谷合に位置しており、中継器の電波圏外となるため十分な効果検証に至らなかった。また、わなの数に対して子機の数も充足していない点も課題となった。 <p>ICTカメラを活用したカモ類調査（8月28日開始）</p> <ul style="list-style-type: none"> トレイルカメラとGISシステムを連動することで、カモの寝床となるため池（個人では現地に入りづらい場所）の状況の可視化が可能となった。 また、別途実施した被害モニタリングのための集落アンケートの情報と相互に照らし合わせることで、被害地域の絞り込みができた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="296 736 602 1096"> <p>居住集落</p> <p>近場の猟場</p> <p>遠くの猟場</p> </div> <div data-bbox="675 736 1011 1186"> <p>鳥獣クラウドとセンサーカメラの連動</p> <p>鳥獣クラウドに自動送信されたカメラ画像（カモ）</p> </div> <div data-bbox="1052 768 1510 1086"> <p>カモ被害の分布（集落アンケート結果）</p> </div> </div> <p>捕獲者Aさんのほかぱと活用事例（居住地から遠い地点での捕獲が可能になった） ※画像の地図情報はけものおと</p>	<p>(シカ) 捕獲通知機器の中継器及び子機を増設し、捕獲効率化の検証を継続。</p> <p>(カモ) 被害が多い地域に銃猟禁止区域が含まれていることや、夜間に水田へ飛来している状況を考慮し、銃器の使用が制限される場所や夜間にドローンを活用した追払いを行う。</p> <p>(カラス) 畜舎に集中的に飛来しているため、銃器を活用した捕獲・追払いと平行し、畜舎の屋根等にドローンを活用した追払いを行い、有効性を検証する。</p> <p>(共通) GIS（鳥獣クラウド）と連動した住民による被害・目撃情報報告フォームの運用を開始し、リアルタイムかつ多数のデータの効率的な収集を図る。</p>
<p>導入機器 ※交付金活用外の機器を含む</p>	<ul style="list-style-type: none"> GIS、鳥獣クラウドシステム（ほかぱと連動機能）（富士通鹿児島インフォネット） 捕獲通知機器 ほかぱと（アイエスイー）親機1、中継機1、子機38 GIS けものおと（アイエスイー） トレイルカメラ、センサーカメラ（ハイク）4台 GPS、GPSカメラ（RICOH） 	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲通知機器 中継機2台、子機62台 鳥獣被害対策ドローン1台 GIS・ICT機器連動1式